

腫瘍マーカー検査

腫瘍マーカー検査はがん細胞の目印(マーカー)になる物質の総称です。採血検査によって身体のどの部分にがんが出来たか、がん細胞はどのような性質かなどを調べられますので診断の手助けになります。

CEA	胃、大腸、膵臓、肝臓など消化器系のがんで上昇します。	
AFP	肝臓がんになると増加する物質です。進行した肝炎、肝硬変でも高値になります。	
CA19-9	膵臓がん、胆道がんで高い陽性率を示します。他に大腸や肝臓がんで上昇します。	
シフラ	肺がんの中でも扁平上皮がんで陽性率が高いです。	
PSA	前立腺がんや前立腺肥大で上昇します。前立腺がんの早期発見に有効です。	
CA125	卵巣がん、子宮体がんに特異な反応を示します。子宮内膜炎や子宮筋腫でも上昇します。	
男性セット	CEA+AFP+CA19-9+シフラ+PSA	男性にお勧めな腫瘍マーカーセット検査です。
女性セット	CEA+AFP+CA19-9+シフラ+CA125	女性にお勧めな腫瘍マーカーセット検査です。

※腫瘍マーカー検査はあくまでもがんの「可能性」を示す検査です。がんを診断する検査ではありません。

胃がんリスク検査(ABC検診)

血液からピロリ菌の感染の有無と胃粘膜萎縮の程度を測定し、胃がんになりやすい状態かどうかABCDの4群に分類する検査です。検査項目に採血が含まれている場合、追加の採血は必要ありません。

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	健康な胃	ピロリ菌に感染しているが胃粘膜は萎縮していない	胃粘膜の炎症を起こし少しずつ胃が萎縮する	胃粘膜の萎縮が進みピロリ菌が胃に生息できなくなる
ペプシノゲン検査	陰性	陰性	陽性	陽性
ピロリ菌抗体	陰性	陽性	陽性	陰性
胃がん発生リスク	非常に低い	やや高い	高い	非常に高い

※検査結果がB・C・D群であっても必ず胃がんになるというものではありません。またA群だからといって必ずしも胃がんにならないというものではありません。

腹部超音波検査

超音波で腹部臓器を検査します。主に肝臓、胆のう、膵臓、脾臓、腎臓などに異常がないか調べます。肝機能【AST(GOT)・ALT(GPT)・γ-GT(γ-GTP)】などが高値を指摘された方は脂肪肝の可能性が高いです。腹部超音波検査をお勧めします。

頸動脈超音波検査

超音波で首の血管(頸動脈)を検査します。血管壁の厚みや血管内にこぶがないかを調べ、動脈硬化の状態を捉えることができます。定期的に検査することで動脈硬化の早期発見や予防につながります。

骨密度検査

超音波で骨の密度を測定して骨粗しょう症を調べます。骨粗しょう症は圧倒的に女性に多く、閉経後から急激に増加します。また、過度なダイエットなどにより若い女性の骨粗しょう症が問題になっています。若いから大丈夫と言わず検査を受けましょう。

眼底・眼圧検査

眼底の血管、網膜、視神経、眼圧を調べる検査です。動脈硬化の程度や糖尿病性網膜症、緑内障、白内障の有無を調べます。失明の原因である糖尿病性網膜症や緑内障は自覚症状が乏しいため、定期的な検査が必要です。

ロックスインデックス(脳梗塞・心筋梗塞リスク検査)

少量の血液で現在の動脈硬化の状態から、将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを検査します。今までの画像検査では、ある程度進行しないと動脈硬化を見つけることは困難でしたが、Lox-indexでは動脈硬化が進行する前の段階でリスクを調べることが可能です。

NT-proBNP(心疾患マーカー)

血液に含まれるNT-proBNPの濃度を調べます。心臓に負担がかかると血中のNT-proBNPという物質の値が上昇します。健康な人のNT-proBNPは極めて低いため、隠れ心不全など早期に発見が可能です。高血圧や糖尿病などの生活習慣病をお持ちの方は、日々心臓に負担をかけています。定期的に検査を受けて突然死のリスクを予防しましょう。

View39(アレルギー多項目同時検査)

発症頻度の高い主要アレルゲン39項目を一度に検査します。アレルギーの原因が分かればそのアレルゲンを除去、回避することによりアレルギー症状の軽減が期待できます。検査項目に採血が含まれている場合、追加の採血は必要ありません。

食物系アレルゲン	卵白、オボムコイド、ミルク、小麦、ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ 米、エビ、カニ、キウイ、リンゴ、バナナ、マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉
吸入系その他アレルゲン	ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト、ネコ皮膚、イヌ皮膚、ガ、ゴキブリ、スギ、ヒノキ ハンノキ(属)、シラカンバ(属)、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、アルテルナリア(ススカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)、カンジダ、マラセチア(属)、ラテックス、オオアワガエリ